

音楽

【公開講座】 レクチャーコンサート
 ～歌とオルガンが織りなす『旧約聖書』の世界～

本学への申込み
 東京純心大学 キリスト教文化研究センター
 042-692-0326

申込み期間
 9月1日(金)
 ～15日(金)

講師	米沢(鎬木)陽子(看護学科 客員教授)
開講日時	10月7日(土) 14:00 開演(13:30 開場) 16:00 終了予定
会場	東京純心大学(江角記念講堂)
内容	オルガンという楽器が生まれたのは紀元前3世紀にまで遡ります。楽曲が楽譜として残されるようになったのは14世紀に入ってからですが、教会や修道院を中心にオルガンとその音楽は育まれ、礼拝で人々の祈りと歌声を支え、またさまざまな楽器と出会い、ともに美しい響きを生み出してきました。今回は『旧約聖書』に由来する作品を中心にプログラムを構成いたしました。 演奏予定曲目:『聖書の歌』(A. ドヴォルザーク)、《バビロンの流れのほとりにて》BWV653(J. S. バッハ)他 アルト独唱:高橋ちはる(賛助出演)
対象	18才以上
定員	先着 150名
受講料	こちらはいちよう塾の【公開講座】のため、受講料は無料です。
持ち物	筆記用具
企画	東京純心大学 キリスト教文化研究センター

講師プロフィール

東京藝術大学大学院博士後期課程(古楽科バロックオルガン専攻)修了。博士号(音楽)取得。主たる研究領域は16-18世紀ドイツのオルガン音楽。カトリック山手教会、目黒教会オルガニスト。日本音楽学会、キリスト教礼拝音楽学会、日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。関東学院大学非常勤講師、立教大学キリスト教学研究科特任教授、東京純心大学客員教授。



講師からみなさまへ

パイプオルガンの多彩な音色は、「鳴り響くステンドグラスの光」とも喩えられましょう。これまでのコンサートでは、合唱や独唱、トランペットとの共演など「オルガン+α」のプログラムを組み、オルガンの可能性を追求してまいりました。今回はバッハ・コレギウム・ジャパンをはじめ各方面でご活躍中の高橋ちはるさんをお迎えし、歌とオルガンによる祈りの調べをたっぷりお聴きいただきたいと思います。